【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

Global Partner/Net VA
グローバルパートナー/Net VA

＊Global Partnerおよび Net VA は、弊社変額個人年金保険の販売名称です。

2008年度
（2008年4月～2009年3月）

特別勘定の現況

決算のお知らせ

ご契約者の皆様へ

日ごろは格別のお引き立てを頂き、誠に有り難く御礼申し上げます。
さて、弊社は去る3月31日に決算を迎えましたので、ここに特別勘定の運用状況をご報告申し上げます。
今後とも何卒ご愛顧の程よろしくお願い申し上げます。

【利用する投資信託の委託会社】

アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社

アクサ・ローゼンバーグは、マルチ・エクスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

アライアンス・バーンスタイン*／アライアンス・バーンスタイン株式会社

米国ニューヨークに本社を置くアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーを中核とするアライアンス・バーンスタインは、業界最大級のグローバルな調査体制を擁する世界有数の運用会社として、グロース株式、バリュー株式、債券、ブレンド戦略など、幅広い資産運用サービスや商品を提供しています。
アライアンス・バーンスタイン株式会社は、アライアンス・バーンスタインの日本拠点で、1986年（アライアンス・キャピタル・マネジメント・ジャパン・インク 東京支店の設立）以来、個人投資家や機関投資家の皆様に幅広い資産運用サービスや商品を提供しています。

*アライアンス・バーンスタインには、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。

- アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 商品内容の詳細については「契約締結前交付書面（契約概要／注意喚起情報）（*）」、「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

* 金融商品取引法の2007年9月30日完全施行により配布を開始しております。

変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2008年4月～2009年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 ［ 2008年4月～2009年3月 ］

【日本株式市場】

日本株式市場は、下落しました。TOPIX（東証株価指数）は前期末比▲36．22%下落の773．66ポイント（前期末は1，212．96ポイント）で終了しました。

6月初旬にかけて、米株高や円安進行を背景に一時1，400ポイント台まで上昇しました。しかしその後は、資源価格高騰による企業収益圧迫懸念などから下落に転じました。9月に入ると米大手証券の経営破綻を受けて金融システム不安が再燃し、金融市場は大混乱となり急落しました。その後は、金融不安の実体経済への波及や円高進行が嫌気される一方、各国の経済対策への期待が交錯し、安値圏で変動の激しい展開となりました。3月には一時700ポイントを割込み、バブル崩壊後の安値を更新しました。

業種別（東証33業種）では、円高・原油安等によるコスト低下期待から「パルプ・紙」（前期末比▲5．18%）の下落率が限定的だった一方、軟調な海運市況を背景に「海運業」（同▲61．35%）が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は、下落しました。NYダウは前期末比▲37．95%下落の7，608．92ポイント（前期末は12，262．89ポイント）で終了しました。5月中旬にかけて堅調な推移で始まったものの、その後は米政府系住宅公社（GSE）の破綻懸念や米大手証券の経営破綻を契機に急落しました。11月以降、オバマ次期米大統領の経済対策への期待などから一時的に反発する局面もありましたが、米自動車会社の経営危機などから引き続き景気後退が懸念され、概ね軟調な展開となりました。

欧州株式市場は、下落しました。市場別騰落率は、英FT100は前期末比▲31．15%下落、仏CAC40は同▲40．36%下落、独DAXは同▲37．49%下落となりました。世界的な金融不安の深刻化などを背景に、概ね米国同様の動きとなりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、期初の金利上昇後は低下基調で推移し、当期末の新発10年国債利回りは1．340%となりました（前期末は1．275%）。

資源価格高騰による世界的なインフレ懸念を背景に金利は上昇基調で始まり、6月に一時1．9%近傍まで上昇しました。その後は、金融不安を背景とする世界的な景況感の悪化や金融緩和策の実施、4-6月期以降連続してマイナスとなった実質GDP成長率など軟調な国内経済指標を受けて、12月には1．1%台まで低下しました。期末にかけては、追加経済対策に伴う国債需給悪化懸念を嫌気した債券売りが台頭し、1．3%前後の狭い範囲で揉み合いながら推移しました。

日銀は、前期末年0．5%であった政策金利を当期末までに年0．1%まで引き下げました。

無担保コール（翌日物）は前期末0．5%程度から当期末0．1%程度に水準を切り下げ推移しました。

【外国債券市場】

米国債券市場は、期後半に金利が大幅に低下しました。米10年国債利回りは期前半は4．0%前後で堅調に推移しましたが、その後米大手証券の経営破綻などを受けて投資家のリスク回避傾向が高まる中、米FRB（連邦準備制度理事会）による利下げやインフレ圧力の低下を背景とした国債買いが優勢となり、当期末は2．663%となりました（前期末は3．410%）。

欧州債券市場は、期中頃以降金利が大幅に低下しました。独10年国債利回りは7月に4．6%台まで上昇した後、世界的な金融市場の混乱に加え軟調な域内経済指標を受けて、低下の一途を辿り、当期末は2．994%となりました（前期末は3．899%）。

米FRBは、前期末年2．25%であったFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標を当期末までに年0．0～0．25%まで引き下げました。ECB（欧州中央銀行）は前期末年4．0%であった政策金利を7月に年4．25%としましたが、当期末までに年1．5%まで引き下げました。

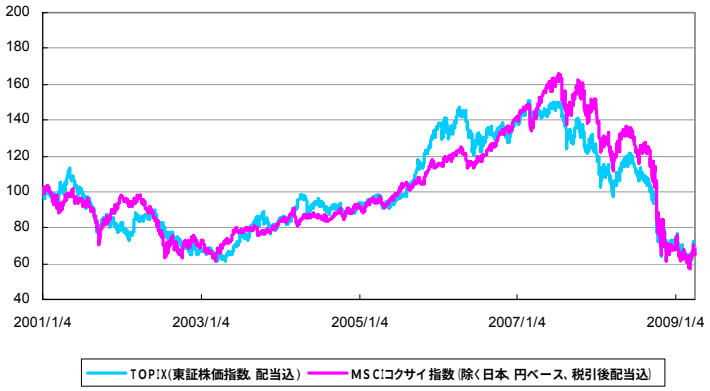
【外国為替市場】

米ドル／円相場は、インフレ懸念を背景に米FRBによる過度な利下げ観測が後退し、8月には1ドル＝110円台まで円安が進行しました。9月以降は金融不安が再燃し、12月には13年ぶりに87円台まで円高が進行しました。期末にかけては、国内の景況感悪化を背景とした円売りから米ドルが戻す展開となりました。円は対ドルで前期末比1円96銭（+1．96%）円高ドル安の1ドル＝98円23銭（前期末は1ドル＝100円19銭）となりました。

ユーロ／円相場は、インフレ懸念を背景にECBによる利上げ観測が台頭し、7月には1ユーロ＝169円台まで円安が進行しました。8月以降は欧州での景気後退の深刻化懸念やECBの大幅な利下げによる金利差縮小を受けて、急激に円高が進行しました。円は対ユーロで前期末比28円35銭（+17．92%）円高ユーロ安の1ユーロ＝129円84銭（前期末は1ユーロ＝158円19銭）となりました。

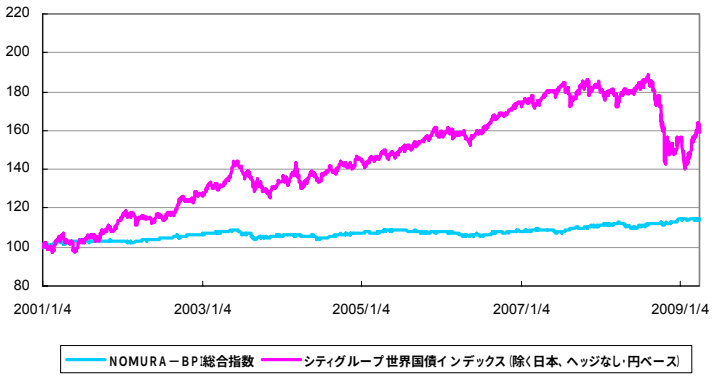
日本と外国の株式市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

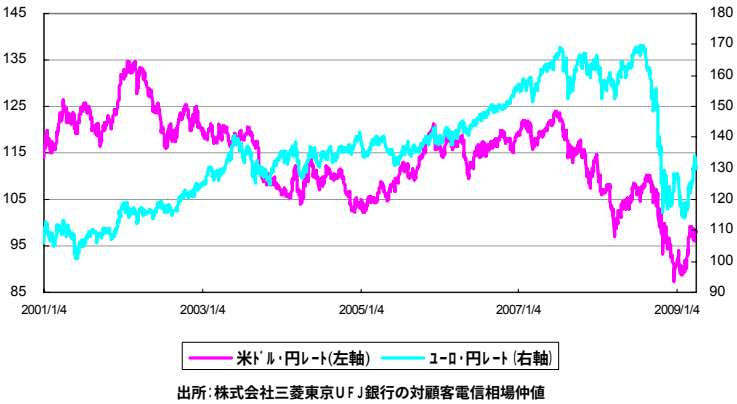


日本と外国の債券市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所：株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2008年4月～2009年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の種類と運用方針について

特別勘定名	基本資産配分比率	運用方針	利用する投資信託	
			投資信託名	委託会社
ライフ・ソリューション30	株式　30% 債券　70%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の30%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型 (B) (適格機関投資家私募)	アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
ライフ・ソリューション50	株式　50% 債券　50%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の50%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型 (B) (適格機関投資家私募)	アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
ライフ・ソリューション70	株式　70% 債券　30%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の70%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型 (B) (適格機関投資家私募)	アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
日本株式	日本株式　100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。	アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド (B) (適格機関投資家私募)	アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
世界株式	世界株式　100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国（日本を含む）の株式を投資対象に成長の可能性が高いと判断される「産業セクター」の中から、成長性が高いと思われる銘柄に投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目的に積極的な運用を行います。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズH（為替ヘッジあり）	アライアンス・バーンスタイン株式会社
世界債券	世界債券　100%	主として多種通貨建の投資適格格付確定利付証券に投資し、利息、配当収益、割引債券における償還差益および元本の変動等をもって、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	アライアンス・バーンスタイン ― グローバル・ボンド・ポートフォリオ（クラスI受益証券）	アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー
マネープール	短期金融資産　100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保をめざします。	アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド (B) (適格機関投資家私募)	アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社

※　特別勘定の種類、運用方針および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。
※　特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

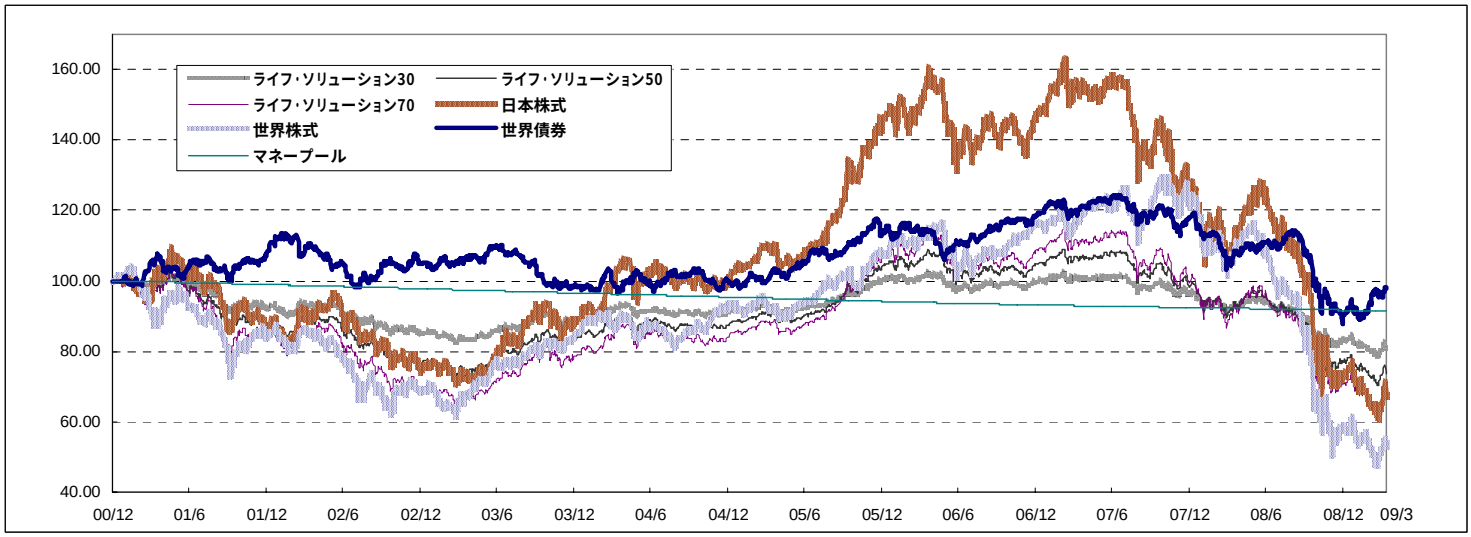
変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2008年4月～2009年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況　［ 2009年3月 末日現在 ］

■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



■特別勘定資産の内訳

特別勘定名	資産残高 金額（千円）
ライフ・ソリューション30	3,272,280
ライフ・ソリューション50	5,669,653
ライフ・ソリューション70	2,968,566
日本株式	2,539,171
世界株式	1,238,079
世界債券	2,242,112
マネープール	453,943

※ 金額の単位未満は切捨てとしました。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2008年4月～2009年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

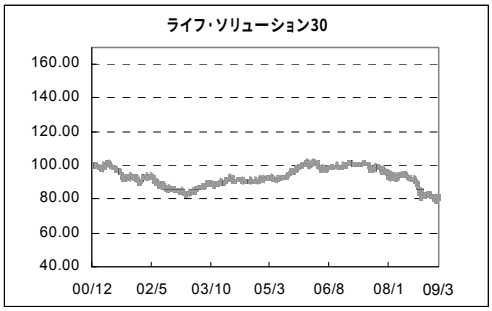
特別勘定　ライフ・ソリューション30　［ 2009年3月 末日現在 ］

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

2008年度のユニット騰落率は▲12．37%となりました。
当期は世界的に株式市場が下落した一方、債券市場は堅調に推移しました。利用する投資信託では、期を通して、市場のボラティリティの高まりを受けて、過度なバイアスをかけず中立的な資産配分を維持することが望ましいとの方針で運用を行いました。日本債券が各資産クラス別ベンチマークを下回ったものの、日本株式、米国株式、欧州株式、及び短期金融資産が各資産クラス別ベンチマークを上回ったことから、株式資産配分の少ない当投資信託はベンチマーク対比でマイナスとなりました。
今後も引き続き、当投資信託への投資を行う方針です。

■特別勘定のユニットプライスの推移

※　特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



ライフ・ソリューション30			
ユニットプライス		騰落率 (%)	
2009年3月末	80.68	過去1ヵ月	0.54
2008年12月末	83.60	過去3ヵ月	▲ 3.49
2008年9月末	87.92	過去6ヵ月	▲ 8.23
2008年6月末	93.08	過去1年	▲ 12.37
2008年3月末	92.07	過去3年	▲ 20.54
2007年12月末	96.38	設定来	▲ 19.31

※　特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※　騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※　各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ（下記参照）、およびインターネット対応の携帯電話（https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp)にて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額（千円）
利息配当金収入	6,154
有価証券売却益	－
有価証券評価益	▲ 171,988
有価証券償還益	－
為替差益	－
その他収益	－
有価証券売却損	－
有価証券評価損	242,127
有価証券償還損	－
為替差損	－
その他費用及び損失	8,667
収支差計	▲ 416,630

■特別勘定資産の内訳

項目	ライフ・ソリューション30	
	金額（千円）	比率（%）
現預金・コールローン	32,189	1.0
その他有価証券	3,240,090	99.0
合計	3,272,280	100.0

※　特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。
　　なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下《参考情報》に記載しております。
※　金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

《参考情報》　アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型（B）（適格機関投資家私募）　［ 2009年3月 末日現在 ］

■利用する投資信託について

［投資信託名］　アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型（B）（適格機関投資家私募）
［委託会社］　アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
［運用方針］

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の30%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主として
　アクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）、
　アクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）、
　アクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）、
　アクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）、
　アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）
　に投資します。

■当投資信託の資産配分比率

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

	基本資産配分	LSF安定型
日本株式	24.00%	24.20%
米国株式	3.00%	2.97%
欧州株式	3.00%	2.68%
日本債券	30.00%	30.49%
短期金融資産等	40.00%	39.66%
合計	100.00%	100.00%

※　各資産の投資信託欄は、原則、当投資信託における各マザー・ファンド保有率を記載しております。
　（短期金融資産等については、当投資信託で保有する現金等も含んでおります。）

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF安定型	0.63%	▲3.26%	▲7.76%	▲11.43%	▲17.83%	▲11.86%
BM	0.68%	▲2.95%	▲7.93%	▲11.10%	▲16.43%	▲7.63%
差	▲0.06%	▲0.31%	0.17%	▲0.33%	▲1.40%	▲4.23%

※　設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※　投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※　「BM」とは、合成ベンチマークを指します。
　合成ベンチマークの組合せの比率は以下のとおりです。

	投資信託
東証株価指数（TOPIX）*1	24.00%
S&P500種株価指数*2（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	3.00%
MSCI欧州株価指数*3（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	3.00%
日興債券パフォーマンス・インデックス（総合*4、中期3年以上7年未満）	30.00%
日本円無担保コールオーバーナイト物レート*5により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したもの	40.00%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。
・5ページ～11ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、12ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2008年4月～2009年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　ライフ・ソリューション50　［ 2009年3月 末日現在 ］

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

2008年度のユニット騰落率は▲19．28%となりました。
当期は世界的に株式市場が下落した一方、債券市場は堅調に推移しました。利用する投資信託では、期を通して、市場のボラティリティの高まりを受けて、過度なバイアスをかけず中立的な資産配分を維持することが望ましいとの方針で運用を行いました。日本債券が各資産クラス別ベンチマークを下回ったものの、日本株式、米国株式、欧州株式、及び短期金融資産が各資産クラス別ベンチマークを上回ったことから、株式資産配分の多い当投資信託はベンチマーク対比でプラスとなりました。
今後も引き続き、当投資信託への投資を行う方針です。

■特別勘定のユニットプライスの推移

※　特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。

ライフ・ソリューション50			
ユニットプライス		騰落率（%）	
2009年3月末	73.74	過去1ヵ月	0.89
2008年12月末	78.10	過去3ヵ月	▲ 5.58
2008年9月末	85.26	過去6ヵ月	▲ 13.51
2008年6月末	93.73	過去1年	▲ 19.28
2008年3月末	91.36	過去3年	▲ 31.27
2007年12月末	99.05	設定来	▲ 26.25

■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額（千円）
利息配当金収入	13,926
有価証券売却益	－
有価証券評価益	▲ 471,759
有価証券償還益	－
為替差益	－
その他収益	－
有価証券売却損	－
有価証券評価損	768,250
有価証券償還損	－
為替差損	－
その他費用及び損失	19,650
収支差計	▲ 1,245,733

※　特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※　騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※　各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ（下記参照）、およびインターネット対応の携帯電話（https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp)にて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の内訳

項目	ライフ・ソリューション50	
	金額（千円）	比率（%）
現預金・コールローン	54,077	1.0
その他有価証券	5,615,575	99.0
合計	5,669,653	100.0

※　特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。
なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下（参考情報）に記載しております。
※　金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

（参考情報）　アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型（B）（適格機関投資家私募）　［ 2009年3月 末日現在 ］

■利用する投資信託について

［投資信託名］　アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型（B）（適格機関投資家私募）
［委託会社］　アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
［運用方針］

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の50%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主として
アクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）、
アクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）、
アクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）、
アクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）、
アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）
に投資します。

■当投資信託の資産配分比率

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

	基本資産配分	LSF安定成長型
日本株式	40.00%	39.85%
米国株式	5.00%	4.88%
欧州株式	5.00%	4.59%
日本債券	25.00%	25.86%
短期金融資産等	25.00%	24.82%
合計	100.00%	100.00%

※　各資産の投資信託欄は、原則、当投資信託における各マザー・ファンド保有率を記載しております。
（短期金融資産等については、当投資信託で保有する現金等も含んでおります。）

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF安定成長型	0.98%	▲5.38%	▲13.14%	▲18.51%	▲29.05%	▲19.92%
BM	1.14%	▲4.94%	▲13.74%	▲18.70%	▲28.16%	▲16.93%
差	▲0.16%	▲0.43%	0.60%	0.19%	▲0.89%	▲2.99%

※　設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※　投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※　「BM」とは、合成ベンチマークを指します。
合成ベンチマークの組合せの比率は以下のとおりです。

	投資信託
東証株価指数（TOPIX）*1	40.00%
S&P500種株価指数*2（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	5.00%
MSCI欧州株価指数*3（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	5.00%
日興債券パフォーマンス・インデックス（総合*4、中期3年以上7年未満）	25.00%
日本円無担保コールオーバーナイト物レート*5により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したもの	25.00%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。
・5ページ～11ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、12ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2008年4月～2009年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　ライフ・ソリューション70　［ 2009年3月 末日現在 ］

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

2008年度のユニット騰落率は▲25．64%となりました。
当期は世界的に株式市場が下落した一方、債券市場は堅調に推移しました。利用する投資信託では、期を通して、市場のボラティリティの高まりを受けて、過度なバイアスをかけず中立的な資産配分を維持することが望ましいとの方針で運用を行いました。日本債券が各資産クラス別ベンチマークを下回ったものの、日本株式、米国株式、欧州株式、及び短期金融資産が各資産クラス別ベンチマークを上回ったことから、株式資産配分の多い当投資信託はベンチマーク対比でプラスとなりました。
今後も引き続き、当投資信託への投資を行う方針です。

■特別勘定のユニットプライスの推移

※　特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。

ライフ・ソリューション70			
ユニットプライス		騰落率（%）	
2009年3月末	66.60	過去1ヵ月	1.34
2008年12月末	72.00	過去3ヵ月	▲7.51
2008年9月末	81.83	過去6ヵ月	▲18.61
2008年6月末	93.35	過去1年	▲25.64
2008年3月末	89.57	過去3年	▲40.45
2007年12月末	100.55	設定来	▲33.40

■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額（千円）
利息配当金収入	14,862
有価証券売却益	－
有価証券評価益	▲ 312,900
有価証券償還益	－
為替差益	－
その他収益	－
有価証券売却損	－
有価証券評価損	620,338
有価証券償還損	－
為替差損	－
その他費用及び損失	12,435
収支差計	▲ 930,812

※　特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※　騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※　各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ（下記参照）、およびインターネット対応の携帯電話（https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp)にて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の内訳

項目	ライフ・ソリューション70	
	金額（千円）	比率（%）
現預金・コールローン	33,565	1.1
その他有価証券	2,935,000	98.9
合計	2,968,566	100.0

※　特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。
　なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下《参考情報》に記載しております。
※　金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

《参考情報》　アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型（B）（適格機関投資家私募）　［ 2009年3月 末日現在 ］

■利用する投資信託について

［投資信託名］　アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型（B）（適格機関投資家私募）
［委託会社］　アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
［運用方針］

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の70%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主として
　アクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）、
　アクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）、
　アクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）、
　アクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）、
　アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）
　に投資します。

■当投資信託の資産配分比率

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

	基本資産配分	LSF成長型
日本株式	55.00%	55.04%
米国株式	7.50%	7.62%
欧州株式	7.50%	7.23%
日本債券	17.50%	18.06%
短期金融資産等	12.50%	12.05%
合計	100.00%	100.00%

※　各資産の投資信託欄は、原則、当投資信託における各マザー・ファンド保有率を記載しております。
（短期金融資産等については、当投資信託で保有する現金等も含んでおります。）

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF成長型	1.42%	▲7.37%	▲18.33%	▲25.03%	▲38.76%	▲28.69%
BM	1.56%	▲6.99%	▲19.56%	▲26.13%	▲38.75%	▲25.68%
差	▲0.14%	▲0.38%	1.24%	1.10%	▲0.01%	▲3.01%

※　設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※　投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※　「BM」とは、合成ベンチマークを指します。
　合成ベンチマークの組合せの比率は以下のとおりです。

	投資信託
東証株価指数（TOPIX）*1	55.00%
S&P500種株価指数*2（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	7.50%
MSCI欧州株価指数*3（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	7.50%
日興債券パフォーマンス・インデックス（総合*4、中期3年以上7年未満）	17.50%
日本円無担保コールオーバーナイト物レート*5により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したもの	12.50%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・5ページ～11ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、12ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2008年4月～2009年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　日本株式　［ 2009年3月 末日現在 ］

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

2008年度のユニット騰落率は▲38．30%となりました。
当期の日本株式市場は、大幅に下落しました。利用する投資信託は、ベンチマーク対比でマイナスとなりました。業種別や個別銘柄の選択が主にマイナスの寄与となった一方、株式市場では、株の売買が活発に行われた銘柄が期を通して乱高下し、期末にかけてベンチマーク対比でそれらの銘柄を少なめに保有していたことが、プラスに寄与しました。
今後も引き続き、当投資信託への投資を行う方針です。

■特別勘定のユニットプライスの推移

※　特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。

日本株式			
ユニットプライス		騰落率（%）	
2009年3月末	66.53	過去1ヵ月	1.92
2008年12月末	75.83	過去3ヵ月	▲ 12.26
2008年9月末	95.33	過去6ヵ月	▲ 30.21
2008年6月末	118.67	過去1年	▲ 38.30
2008年3月末	107.84	過去3年	▲ 57.14
2007年12月末	126.08	設定来	▲ 33.46

※　特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※　騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※　各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ（下記参照）、およびインターネット対応の携帯電話（https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp)にて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額（千円）
利息配当金収入	14,582
有価証券売却益	－
有価証券評価益	－
有価証券償還益	－
為替差益	－
その他収益	－
有価証券売却損	－
有価証券評価損	1,336,087
有価証券償還損	－
為替差損	－
その他費用及び損失	117,066
収支差計	▲ 1,438,570

■特別勘定資産の内訳

項目	日本株式	
	金額（千円）	比率（%）
現預金・コールローン	34,921	1.4
その他有価証券	2,504,249	98.6
合計	2,539,171	100.0

※　特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。
　　なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下《参考情報》に記載しております。
※　金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

《参考情報》　アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）（適格機関投資家私募）　［ 2009年3月 末日現在 ］

■利用する投資信託について

［投資信託名］　アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）（適格機関投資家私募）
［委託会社］　アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
［運用方針］

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	2.02%	▲12.15%	▲30.26%	▲38.18%	▲56.11%	▲25.85%
BM	2.24%	▲9.96%	▲28.85%	▲36.22%	▲55.23%	▲39.99%
差	▲0.22%	▲2.19%	▲1.41%	▲1.96%	▲0.88%	14.14%

※　設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※　投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※　「BM」とは、ベンチマークを指します。
　　ベンチマークは、東証株価指数（TOPIX）*1です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　組入上位10銘柄

	銘柄	業種	マザーファンド
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.32%
2	エヌ・ティ・ティ・ドコモ	情報・通信業	3.25%
3	武田薬品工業	医薬品	3.16%
4	日本電信電話	情報・通信業	3.09%
5	アステラス製薬	医薬品	2.60%
6	KDDI	情報・通信業	2.58%
7	国際石油開発帝石	鉱業	2.21%
8	第一三共	医薬品	1.94%
9	東海旅客鉄道	陸運業	1.88%
10	ジェイ　エフ　イー　ホールディングス	鉄鋼	1.83%
合計			25.86%
組入銘柄数			369銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。
・5ページ～11ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、12ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2008年4月～2009年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

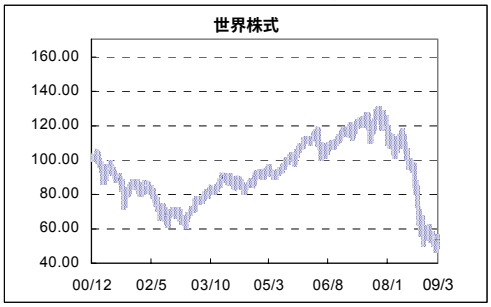
特別勘定　世界株式　［ 2009年3月 末日現在 ］

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

2008年度のユニット騰落率は▲50．09%となりました。（以下、委託会社独自のセクター別で記載。）
当期の世界の株式市場は大幅に下落しました。利用する投資信託のベンチマークとの比較では、セクター配分はプラスに寄与したものの、銘柄選択はマイナスに寄与しました。セクター配分では、金融サービス・セクターのアンダーウェイトなどがプラスに寄与しました。銘柄選択では、金融サービス・セクターやエネルギー・天然資源セクターにおける選択が主なマイナス要因となりました。
今後も引き続き、当投資信託への投資を行う方針です。

■特別勘定のユニットプライスの推移

※　特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



世界株式			
ユニットプライス		騰落率（%）	
2009年3月末	52.39	過去1ヵ月	2.86
2008年12月末	57.03	過去3ヵ月	▲ 8.15
2008年9月末	76.66	過去6ヵ月	▲ 31.66
2008年6月末	103.42	過去1年	▲ 50.09
2008年3月末	104.97	過去3年	▲ 53.74
2007年12月末	123.76	設定来	▲ 47.61

※　特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※　騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※　各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ（下記参照）、およびインターネット対応の携帯電話（https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp）にて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額（千円）
利息配当金収入	588
有価証券売却益	－
有価証券評価益	▲ 256,723
有価証券償還益	－
為替差益	－
その他収益	－
有価証券売却損	－
有価証券評価損	786,879
有価証券償還損	－
為替差損	－
その他費用及び損失	15,971
収支差計	▲ 1,058,985

■特別勘定資産の内訳

項目	世界株式	
	金額（千円）	比率（%）
現預金・コールローン	21,316	1.7
その他有価証券	1,216,762	98.3
合計	1,238,079	100.0

※　特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。
　　なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下《参考情報》に記載しております。
※　金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

《参考情報》　適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズH（為替ヘッジあり）　［ 2009年3月 末日現在 ］

■利用する投資信託について

［投資信託名］　適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズH（為替ヘッジあり）
［委託会社］　アライアンス・バーンスタイン株式会社
［運用方針］

マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国（日本を含む）の株式を投資対象に成長の可能性が高いと判断される「産業セクター」の中から、成長性が高いと思われる銘柄に投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目的に積極的な運用を行います。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主としてアライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ・マザーファンド受益証券に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	3.02%	▲8.04%	▲31.82%	▲50.18%	▲52.90%	▲42.96%
BM	4.11%	▲11.43%	▲31.27%	▲43.91%	▲42.61%	▲36.18%
差	▲1.09%	3.39%	▲0.55%	▲6.27%	▲10.29%	▲6.78%

※　設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）を起点として計算しています。
※　投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※　「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCIワールド・インデックス*6（税引前配当金込／為替ヘッジあり／円ベース）です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　組入上位10銘柄

	銘柄	国名	セクター	業態	マザーファンド
1	ウォルマート	アメリカ	生活必需品	小売	3.61%
2	エクソン・モービル	アメリカ	エネルギー	石油	2.34%
3	アポロ・グループ	アメリカ	一般消費財・サービス	大学経営	1.78%
4	クレディ・スイス・グループ	スイス	金融	総合金融	1.70%
5	ゴールドマン・サックス・グループ	アメリカ	金融	証券・投資銀行	1.70%
6	ロシュ・ホールディング	スイス	ヘルスケア	医薬品	1.65%
7	BGグループ	イギリス	エネルギー	ガス	1.63%
8	ロウズ	アメリカ	一般消費財・サービス	建材・家庭用品	1.58%
9	テスコ	イギリス	生活必需品	スーパーマーケット	1.57%
10	ギリアド・サイエンシズ	アメリカ	ヘルスケア	バイオ医薬品	1.56%
	合計				19.12%
	組入銘柄数				142銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・5ページ～11ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、12ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2008年4月～2009年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　世界債券　［ 2009年3月 末日現在 ］

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

2008年度のユニット騰落率は▲7．44%となりました。 利用する投資信託では、期を通して、米国の住宅用モーゲージ証券を低めの組入れ比率とする一方、米国の商業用モーゲージ証券（CMBS）を高めとしました。ベンチマークとの比較では、2008年4月～5月はCMBSへの投資がプラス要因となりましたが、その後はマイナス要因となりました。また、投資適格社債の高めの組入れは2008年4月、5月にはプラス要因となりましたが、その後はマイナス要因となりました。2009年1月から米国劣後債を新規に組入れましたが、マイナス要因となりました。引き続き米国の住宅用モーゲージ証券を低めの組入れとする一方、米国のCMBSに投資妙味があると見ており、国別では米国の組入れを高めとしています。 今後も引き続き、当投資信託への投資を行う方針です。

■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。

世界債券			
ユニットプライス		騰落率（%）	
2009年3月末	98.27	過去1ヵ月	1.44
2008年12月末	92.18	過去3ヵ月	6.61
2008年9月末	105.27	過去6ヵ月	▲ 6.65
2008年6月末	110.24	過去1年	▲ 7.44
2008年3月末	106.17	過去3年	▲ 13.83
2007年12月末	119.22	設定来	▲ 1.72

※ 特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※ 騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※ 各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ（下記参照）、およびインターネット対応の携帯電話（https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp)にて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額（千円）
利息配当金収入	117,863
有価証券売却益	－
有価証券評価益	－
有価証券償還益	－
為替差益	－
その他収益	－
有価証券売却損	28,799
有価証券評価損	243,641
有価証券償還損	－
為替差損	－
その他費用及び損失	－
収支差計	▲ 154,578

■特別勘定資産の内訳

項目	世界債券	
	金額（千円）	比率（%）
現預金・コールローン	29,803	1.3
その他有価証券	2,212,309	98.7
合計	2,242,112	100.0

※ 特別勘定で利用している外国投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。
なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下《参考情報》に記載しております。
※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

《参考情報》 アライアンス・バーンスタイン― グローバル・ボンド・ポートフォリオ （クラスI受益証券） ［ 2009年3月 末日現在 ］

■利用する投資信託について

［投資信託名］　アライアンス・バーンスタイン― グローバル・ボンド・ポートフォリオ （クラスI受益証券）
［委託会社］　アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー
［運用方針］

主として多種通貨建の投資適格格付確定利付証券に投資し、利息、配当収益、割引債券における償還差益および元本の変動等をもって、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。原則として、投資信託の総資産の70%以上を米ドル建ての証券または米ドルをヘッジする証券に投資します。

※ 当投資信託は、米ドル建ルクセンブルグ籍外国投資信託です。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	1.37%	▲0.75%	0.01%	▲4.62%	6.62%	75.02%
BM	0.87%	▲0.01%	4.63%	3.62%	16.02%	102.35%
差	0.50%	▲0.74%	▲4.62%	▲8.24%	▲9.40%	▲27.33%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（1996年11月20日）を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、バークレイズ・キャピタル・グローバル総合インデックス*7です。

■当投資信託の詳細情報

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

○ 組入上位10債券種類

	銘柄	国名	格付 ムーディーズ	格付 S&P	投資信託
1	日本国債（9/20/12-3/20/25）	日本	Aa3	AA	10.70%
2	ファニーメイ（9/1/29-6/1/38）	米国	Aaa	AAA	9.40%
3	米国国債(2/15/15-5/15/18)	米国	Aaa	AAA	5.90%
4	英国国債(8/25/17)	英国	Aaa	AAA	4.70%
5	カナダ国債(6/1/15)	カナダ	Aaa	AAA	3.80%
6	フランス国債（4/25/23）	フランス	Aaa	AAA	3.60%
7	日本政策投資銀行(6/20/14)	日本	Aaa	AA	3.20%
8	ドイツ国債(1/4/24/-4/1/30)	ドイツ	Aaa	AAA	3.10%
9	JPMCC(2/1/11-6/12/47)	米国	Aaa	AAA	1.90%
10	ドイツ復興金融公庫(12/14/12-2/16/26)	ドイツ	Aaa	AAA	1.70%
合計					48.00%

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・5ページ～11ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、12ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2008年4月～2009年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

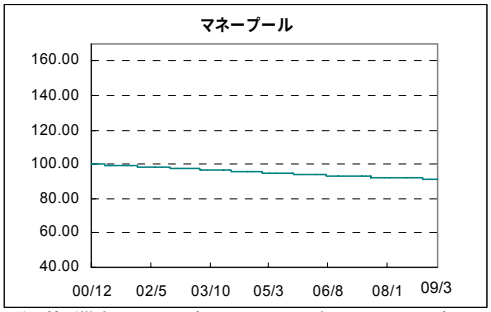
特別勘定　マネープール　［ 2009年3月 末日現在 ］

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

2008年度のユニット騰落率は▲0．73%となりました。
当期の日本の短期金融市場は、景気減速懸念の高まりから、銀行間金利が上昇圧力を受けたことや市場の流動性の急激な低下等が大きな悪材料となりました。利用する投資信託では、主に日本政府が発行する割引短期国債（TB）や政府短期証券（FB）を中心に投資を行うとともに、利回り向上を念頭に、ごく期間の短い高格付けの非国債債券への投資も行いました。
今後も引き続き、当投資信託への投資を行う方針です。

■特別勘定のユニットプライスの推移

※　特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



マネープール			
ユニットプライス		騰落率（%）	
2009年3月末	91.53	過去1ヵ月	▲ 0.04
2008年12月末	91.65	過去3ヵ月	▲ 0.13
2008年9月末	91.85	過去6ヵ月	▲ 0.34
2008年6月末	92.02	過去1年	▲ 0.73
2008年3月末	92.21	過去3年	▲ 2.49
2007年12月末	92.37	設定来	▲ 8.46

※　特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※　騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※　各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ（下記参照）、およびインターネット対応の携帯電話（https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp)にて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額（千円）
利息配当金収入	1,171
有価証券売却益	－
有価証券評価益	911
有価証券償還益	－
為替差益	－
その他収益	－
有価証券売却損	－
有価証券評価損	－
有価証券償還損	－
為替差損	－
その他費用及び損失	－
収支差計	2,082

■特別勘定資産の内訳

項目	マネープール	
	金額（千円）	比率（%）
現預金・コールローン	70,802	15.6
その他有価証券	383,140	84.4
合計	453,943	100.0

※　特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。
　　なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下《参考情報》に記載しております。
※　金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

《参考情報》　アクサ　ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド（B）（適格機関投資家私募）　［ 2009年3月 末日現在 ］

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ　ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド（B）（適格機関投資家私募）
【委託会社】　アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保をめざします。
※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.08%	0.18%	0.29%	0.52%	1.19%	1.24%
BM	0.01%	0.03%	0.11%	0.36%	1.09%	1.17%
差	0.07%	0.15%	0.18%	0.15%	0.09%	0.07%

※　設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※　投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※　「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、
　　日本円無担保コールオーバーナイト物レート[*5]により
　　日々運用したときに得られる投資収益を指数化したものです。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

○　資産構成

	修正デュレーション	マザーファンド
公社債	0.11年	26.17%
短期資産等	0.10年	73.83%
合計	0.11年	100.00%

・　比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。
※　「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　　・5ページ～11ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、12ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険

用語説明

＊1「東証株価指数（TOPIX）」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。
東証株価指数（TOPIX）は、株式会社東京証券取引所（以下㈱東京証券取引所）の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は㈱東京証券取引所が有しています。
㈱東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

＊2「S＆P500種株価指数」とは、スタンダード＆プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利は
スタンダード＆プアーズ社に帰属しています。S＆P500種株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）は、S＆P500種株価指数（米ドルベース）に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、
わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。

＊3「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc.の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。
また、MSCI Inc.は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）は、MSCI欧州株価指数（ユーロベース）に対し、
委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。

＊4「日興債券パフォーマンス・インデックス（総合）」とは、日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社が発表している、日本の債券市場の動きを表す指数です。国債、地方債、政府保証債、財投機関債、
金融債、事業債などの円建て公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存年数1年以上、残存額面10億円以上で、格付機関からBBB格相当以上の格付を取得している発行体に限られます。
同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利は日興コーディアル証券株式会社に帰属します。また、日興コーディアル証券株式会社は同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

＊5「日本円無担保コールオーバーナイト物レート」について。コール市場とは、民間金融機関が短期的な手元資金の余剰や不足を調整するための市場をいいます。
このコール市場において、金融機関間で、担保なしで、翌日に返済することを条件に、短期の資金を貸し・借りする取引に適用される金利を「無担保コールオーバーナイト物レート」といいます。

＊6「MSCIワールド・インデックス」とは、MSCI Inc.が世界の先進国株式市場のパフォーマンスを測るために開発した指数で、各国の株式時価総額等をベースに算出されたものです。
MSCIワールド・インデックスに関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
MSCIワールド・インデックス（税引前配当金込／為替ヘッジあり／円ベース）は、MSCIワールド・インデックス（米ドルベース）をもとに、為替ヘッジにかかる費用相当分を考慮して委託会社が円ヘッジベースに換算したものです

＊7「バークレイズ・キャピタル・グローバル総合インデックス」とは、バークレイズ・バンク・ピーエルシーの投資銀行部門であるバークレイズ・キャピタルが開発、算出、公表をおこなう
インデックスであり、世界の投資適格債券市場のパフォーマンスをあらわします。当該インデックスに関する知的財産権およびその他の一切の権利はバークレイズ・キャピタルに帰属します。

変額個人年金保険のリスク及び諸費用について　①

【投資リスクについて】

この保険は積立金額および年金額等が特別勘定資産の運用実績に応じて変動（増減）するしくみの変額個人年金保険です。
特別勘定資産の運用は、主として国内外の株式および公社債を主要投資対象とする投資信託を利用して運用され、
株式および公社債の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあります。
特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、このリスクはご契約者に帰属し、ご契約者が損失を被ることがあります。
運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払いもどし金額等が一時払保険料等を下回る場合があります。
特別勘定における資産運用の結果がご契約者の期待通りでなかった場合でも、当社または第三者がご契約者に何らかの補償・補填をすることはありません。

【諸費用について】

ご契約者などにご負担いただくこの保険の諸費用は、次のとおりです。

＜年金支払開始日前＞

●特別勘定のユニットプライス（単位価格）を計算する前にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
契約初期費用（増額費用）	特別勘定繰入前	保険料の2．0％	保険料から契約初期費用として2．0％が控除された後の金額が積立金として特別勘定で運用されます。（増額費用も同じ）
保険契約管理費（積立金比例額）	毎日	特別勘定の積立金総額に対して年率1．2％＊	当社の経費に充当されます。（基本保険金額を死亡時に最低保証するための費用および災害死亡保険金のための費用を含みます。）

＊　毎日その日の始めの特別勘定の積立金総額に年率1．2％の365分の1を乗じた金額を毎日その日の終わりの特別勘定の積立金総額から控除します。

●ご契約の内容と取引の内容による費用
特別勘定のユニットプライス（単位価格）を計算した後にご負担いただく費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考
保険契約管理費（件数比例額）	月単位の契約応当日	毎月　100円	契約1件あたり毎月の契約応当日の前日の積立金の合計額から控除します。
積立金移転費用	移転時	<書面による移転申込みの場合> 1回目1,500円 2回目以降は1回につき2,300円(*1)	毎回の移転について積立金から控除します。
		<インターネットによる移転申込みの場合> 月1回の積立金の移転は無料 2回目からは1回につき800円(*1)	1ヵ月に2回以上積立金の移転を行なう場合、2回目からの移転について積立金から控除します。
貸付利息	月単位の契約応当日および貸付金の返済時	貸付金額の年利1．2％	貸付金制度を利用されたとき、月単位の契約応当日および貸付金の返済時に、積立金から徴収します。

※　13ページ［変額個人年金保険のリスク及び諸費用について　②］へ続きます。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険のリスク及び諸費用について　②

解約控除	解約時	積立金額の 8．0%～0．8%	解約日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数（1年未満切り上げ）に応じて、積立金額に対して解約控除率（8%から0．8%）を乗じた金額を積立金額から控除します。
	減額時	減額に相当する積立金額の 8．0%～0．8%	減額日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数（1年未満切り上げ）に応じて、減額に相当する積立金額に対して解約控除率（8%から0．8%）を乗じた金額を減額に相当する積立金額から控除します。

(*1) 月単位の契約応当日から翌月の契約応当日の前日までに積立金移転を行なった回数

※ 貸付制度は、ご契約が成立後、会社の定める範囲内で何回でも貸付を受けることができます。

※ 将来、上記の内容が変更になることがあります。

●その他間接的にご契約者にご負担いただく運用関係の費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考
運用関係費	毎日	ライフ・ソリューション30 年率0．945%程度(税抜0．900%程度)	特別勘定が利用する投資信託の純資産額に対して控除いたします。
		ライフ・ソリューション50 年率1．050%程度(税抜1．000%程度)	
		ライフ・ソリューション70 年率1．155%程度(税抜1．100%程度)	
		日本株式 年率0．840%程度(税抜0．800%程度)	
		世界株式 年率0．8925%程度(税抜0．850%程度)	
		世界債券 年率0．650%程度 *1	
		マネープール 年率0．034125%～年率0．483000%程度 (税抜0．0325%～0．4600%程度) *2	

※ 運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。
信託報酬の他、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料及び消費税等の税金等の諸費用がかかりますが、これらの諸費用は運用資産額や取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。
また、各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの諸費用を間接的に負担することとなります。
これらの運用関係費は、運用手法の変更・運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

*1 世界債券のみ、ルクセンブルグ籍の投資信託を使用しているため、管理報酬等を記載しております。
管理報酬等には、予め定率として決められている管理報酬および管理会社報酬が含まれます。
その他、お客様にご負担いただく手数料には、保管報酬、管理事務代行報酬、名義書換代行報酬、ルクセンブルグ大公国の法令に基づく税金等、有価証券の売買手数料、保有する有価証券の譲渡・償還益および配当やクーポンに対する源泉徴収税等の諸費用がかかることがありますが、運用資産額の取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。

*2 マネープールの運用関係費は、各月の前月最終5営業日における無担保コールオーバーナイト物レートの平均値に応じて毎月見直されます。

※ 世界株式の運用関係費は、2008年6月1日付で、
年率1．155%程度(税抜1．100%程度)から年率0．8925%程度(税抜0．850%程度)へ変更となりました。

＜年金支払開始日以後＞

●年金支払開始日以後にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
年金管理費	年単位の 契約応当日	支払年金額の1．0%	年金支払開始日以後、年単位の契約応当日に責任準備金から控除されます。

※ 年金管理費は、将来変更となる可能性があります。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/